

読書のすすめ

新任者紹介 ⑥

小林亮太（1年6組副担任・保健体育科）

その7

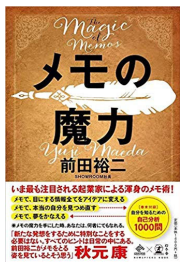
H 31 4 / 18



カタクリ

前田裕二（幻冬舎）

私が一番最近読んだ本です。「一行のメモが一生を変える。」という言葉の言葉に惹かれたからです。みなさんも日常、様々な情報をメモすると思いますが、その内容を振り返ったり、理解を深めたりしているでしょうか。この本では、メモをすることがアイデアを生んだり、物事の本質を見抜くことができたりと、人生を豊かにすることを伝えていきます。是非皆さんもこの本を読み、メモをとることの重要性を再認識してもらえればと思います！



鬼澤聡史（2年2組副担任・国語）

伊坂幸太郎（新潮社）



大人になってから、ミステリー小説を読むようになりました。その中でも、伊坂幸太郎さんの作品が特に好きで、よく読んでいます。説明するのが難しいので、どんなジャンルなのかということを紹介したいと思います。ミステリー小説とは、過去・現在の時間差のなかで、用意された様々な伏線（トリック）により、読み手があっと驚くような結末を書く作品がミステリー小説です。興味がある方はぜひ!!

また、読みにくいという方は短編の漫画になっている作品を紹介しておきます。さらに、有名な漫画でいえば『HUNTER×HUNTER』などもそれに近いかもしれませんね!!

宮内 健一（2年4組副担任・数学）

『さよなら、田中さん』鈴木るりか（小学館）



現在高校1年生の著者が2年前14歳の誕生日にデビュー作として刊行した短編集。お金はないけど愛にあふれた母子家庭の親子の物語。小学6年生の主人公田中花実の母の口癖「もし死にたいくらい悲しいことがあったら、とりあえずメシを食え。そして一食食ったら、その一食分だけ生きてみる。それでまた腹が減ったら。一食分食べて、その一食分生きるんだ。そうやってなんとかでもしのいで命をつないでいくんだよ。」をはじめ印象に残るフレーズが満載。

高校生の皆さんにとって読みやすい本だと思えます。その他に

『世に棲む日日』司馬遼太郎（文春文庫）

前半は吉田松陰、後半は高杉晋作を中心に描かれた作品。これを機に読み返そうと思う。

『赤ひげ診療譚』山本周五郎（新潮文庫）

青年医師と「赤ひげ」と呼ばれる医者をも主人公として、患者との葛藤を描いた人間ドラマ。併せて黒澤明監督で映画化された『赤ひげ』も必見。

『兎の眼』灰谷健次郎（角川文庫）

主人公は大学を卒業したばかりの若い女性教師。直面する出来事等を通して子供たちと共に成長する姿を描いた作品。印象に残った人物は壮絶な過去を持つバクじいさん。

